

県内復興・経済日誌（2018年9月）

1日

《県農業賞の受賞者が決定》

「農業十傑」として知られ、県内の農業分野の賞で最も権威のある第59回福島県農業賞の受賞者が決定した。農業経営改善部門に夫婦6組と3法人、集団活動部門・農村女性活動の部に1団体、復興・創生特別賞に1団体が選ばれた。最高賞の農林水産大臣賞には喜多方市で肉用牛の繁殖・肥育に取り組む五十嵐ファームが輝いた。

2日

《川俣町にミツフジ福島工場が完成》

銀メッキ導電性繊維製造・販売のミツフジ（本社・京都府）が、川俣町の川俣西部工業団地に整備していた福島工場が完成し、現地で竣工式が行われた。同工場は、導電性の高い繊維「AGposs（エージーボス）」で脈拍などの生体情報を読み取るウェアラブル端末の製造と生体情報解析・商品開発研究の拠点となる。

3日

《金賞酒19銘柄デザインの切手が販売開始》

全国新酒鑑評会で本県の日本酒が6年連続金賞受賞数日本一に輝いたことを記念し、日本郵便は県内の郵便局で、金賞酒がデザインされたオリジナルフレーム切手の販売を開始した。金賞酒19銘柄のラベルなどをデザインした82円切手を10枚で1シートにしたもの2種類で、それぞれ3,000部を県内415の郵便局のほか、インターネットでも販売する。

4日

《スーパーでマイナンバーによる各種証明書の交付開始》

いわき市や茨城県でスーパーマーケットを展開するマルト（本社・いわき市）は、マイナンバー制度の個人番号カードを使い、住民票など各種証明書の交付が受けられるサービスを開始した。買い物客の利便性向上を図ることが目的で、同市中岡町のマルトショッピングセンター中岡店に専用端末を設置した。同市の他に双葉

町の行政サービスにも対応する。

5日

《楡葉町の町内居住率49.76%》

楡葉町は、原発事故に伴う避難指示が解除されてから3年を迎えた。町内居住者数は3,481人（8月末現在）となり、町内居住率は49.76%に達した。復興拠点として町が整備した商業施設やコミュニティ再生を目指す交流館がオープンし、にぎわいが戻った。2015年9月の避難指示解除後、町内には復興診療所の新設や小中学校の授業再開により、避難先から戻る人が増え、さらなる復興の動きが期待されている。

7日

《浪江町にカーシェアリング拠点》

日産自動車（本社・横浜市）は、浪江町に電気自動車（EV）のカーシェアリングサービス「NISSAN e-シェアモビ」のステーションを今年度中にも設置する。同町を訪れた同社のダニエレ・スキラッチ副社長が明らかにした。同町はEVを活用する「町復興スマートコミュニティ構築事業」に取り組んでおり、カーシェアリングやデマンド型乗合いタクシーを導入し、地域をつなぐことを目指している。

12日

《東京五輪のソフトボール、福島で6試合》

2020年東京オリンピック・パラリンピックの大会組織委員会は、県営あづま球場（福島市）で開催されるソフトボールの試合数を、当初予定していた1試合から6試合に増やすと発表した。決定を受け、内堀知事は「県民の皆さんが直接、競技を観戦できる機会が増えることにつながり、大変嬉しく思う」とコメントした。震災と原発事故からの復興状況を多くの人に見てもらうことで、「復興五輪」の理念がより一層具体化されることにつながる。

13日

《昭和からむし織、海外へ》

昭和村と奥会津昭和村振興公社は、村特産で国の伝統的工芸品に指定された「奥会津昭和か

らむし織」の海外展開を目指し、試作品を都内のアラブ首長国連邦（UAE）大使館のカーリド・アルアメリ駐日大使に贈った。からむし織は「世界で最も涼しい布」とも評され、軽くて涼しい特性を活かし中東諸国などへ輸出しようと、現地の男性が頭に巻く布「ゴトラ」を試作したもので、同村は世界進出への弾みになると期待を高めている。

《葛尾村で7年半ぶりに酪農が再開》

原発事故で休止していた葛尾村の酪農が、7年6カ月ぶりに再開した。同村落合の佐久間牧場が乳牛8頭の飼育を開始したもので、2019年1月の牛乳出荷を目指す。2018年度中に50～70頭程度に増やし、5年後には震災前の約130頭を上回る300頭規模に拡大する計画。

17日

《西田敏行さんに県民栄誉賞》

県は、俳優や歌手として長年活躍してきた西田敏行さん（郡山市出身）に県民栄誉賞を贈り、郡山市内のホテルで表彰式を開催した。会場には県民ら約300人が集り、内堀知事から表彰状を受け取った西田さんは「福島をふるさとに持って本当によかった。精一杯福島のために、俳優として元気に仕事をしていきたい」と笑顔を見せた。

18日

《県内の基準地価、5年連続上昇》

県が公表した今年の県内の基準地価（7月1日時点）は、林地を除く平均で0.5%増（昨年は0.8%増）と、5年連続で上昇した。住宅地の上昇率は全国6位（同3位）の0.5%。市町村別では、1位は福島市の2.4%、2位が郡山市の2.2%となった。住民の帰還が進む広野、楡葉両町はともに2.1%の3位。一方、昨年トップだったいわき市は、被災者の住宅需要が落ち着き、上昇率は1.7%と昨年の3.4%から半減し5位となった。

19日

《広野町でバナナ栽培開始》

広野町で国産バナナの栽培が始まった。同町が100%出資する広野町復興公社が、国産バナナ販売会社「GPファーム」（千葉県成田市）の支援の下、震災などの影響で使われていなかった園芸ハウスを活用、苗150本を植えた。定植式で遠藤智町長は「被災した双葉地域の新

たな特産品を全国に届けたい」と話した。

22日

《小型ロボットが小惑星に着陸》

宇宙航空研究開発機構（JAXA）は、探査機はやぶさ2から放出した小型探査ロボット「ミネルバ2」2台が、小惑星りゅうぐうに無事到着したことを確認した。小惑星表面を移動しながら探査するロボットの着陸成功は世界初となる。「はやぶさ2」プロジェクトに関わる会津大学の出村裕英教授は、「会津大学が関わっていることは大変名誉なこと」とコメントした。

24日

《川内村で林業フェアを開催》

原発事故で被災した浜通りに新産業を集積させる「福島イノベーション・コースト構想」の一環で、先端林業技術を一堂に集めたフェアが川内村で開かれた。県内外の企業や研究所など約10団体が出展、人工筋肉で油圧シャベルを遠隔操作する機器や、航空レーザー測量で樹木の本数や高さを計測するシステムなどを紹介した。

25日

《全国燗酒コンテストで県内3蔵が最高金賞》

温めた日本酒の味を競う「全国燗酒コンテスト2018」で、大和川酒造店（喜多方市）、人気酒造（二本松市）、笹の川酒造（郡山市）の県内3蔵が最高金賞に輝いた。お値打ち燗酒ぬる燗酒部門で大和川酒造店の「純米辛口弥右衛門」、プレミアム燗酒部門で人気酒造の「人気一燗酒スペシャル」、特殊ぬる燗部門で笹の川酒造の「笹の川秘蔵純米二十五年古酒」がそれぞれ受賞した。

27日

《イノベーション構想人材育成へ向けた連携協定締結》

福島イノベーション・コースト構想の人材育成に向けて産学官連携を図る「福島浜通り復興創生キャンパスコンソーシアム」の協定書締結式が、いわき市の東日本国際大学で行われた。協定を締結したのは東日本国際大学、いわき明星大学、いわき短期大学、福島高専の4教育機関と、いわき市、広野、楡葉両町、いわき商工会議所で、各機関の専門分野とノウハウを活かして同構想の実現を見据えた講座や研究などを展開し、地域の産業発展、医療の充実、若者世代の定着につなげる。